

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年12月22日 (2011.12.22)

【公表番号】特表2008-516649(P2008-516649A)

【公表日】平成20年5月22日 (2008.5.22)

【年通号数】公開・登録公報2008-020

【出願番号】特願2007-535996(P2007-535996)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/44

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年11月4日 (2011.11.4)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 6】

アーチのように湾曲した凸状部（複数を含む）（16）及び対応する凹状部（複数を含む）（17）の腹側および背側曲率半径が、等しいまたは異なる、請求項 1～5 の少なくとも 1 つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 7】

摺動パートナー（11、12、13）の最大可能運動が、  
 a）曲率半径と、凸状部（16）、凹状部（17）ならびに連接区域を腹側および背中側に取り囲むそれぞれの縁部（14）の高さとによる相手方に対する摺動パートナー（11、12、13）の背腹方向への傾きと、  
 b）隣接する摺動パートナー（11、12、13）の縁部（14）の間にある開口角（21）であって、これは隣接する摺動パートナー（11、12、13）に対し傾いておよび／または水平に走る縁部（14）によって形成され、摺動パートナー（11、12、13）の最終接触の間、ギャップの閉鎖が起こる開口角と、  
 c）円筒状凸状部（複数を含む）及び対応する凹状部（複数を含む）の弓なりに曲がった湾曲（複数を含む）及び弓なりに曲がった湾曲（複数を含む）の程度、ならびに、円筒状連接区域の終端での、それぞれ右および左横方向に対する凸状部および凹状部の間の許容度による、仮想垂直軸に関する、摺動パートナーの回転と、によって規定される、請求項 1～6 の少なくとも 1 つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 9】

摺動パートナー（11、12、13）の少なくとも 1 つが、少なくとも 2 つの永久的な

または永久的であるが可逆的に結合した部分を含み、凸状部（複数を含む）（１６）および／または凹状部（複数を含む）（１７）が永久的にまたは永久的であるが可逆的に対応する摺動パートナー（１１、１２および１３）に結合した部分であるか、あるいは凸状部（複数を含む）（１６）および／または凹状部（複数を含む）（１７）が基板上のそれぞれの摺動パートナーに永久的にまたは永久的であるが可逆的に取り付けするための適切な手段を有する、請求項１～７の少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項１１

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項１１】

摺動パートナー（１１、１２および１３）および／または互いの結合部分の表面が等しくまたは異なって被覆されている、先の請求項の少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正５】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項１２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項１２】

永久的なまたは永久的であるが可逆的な取り付けを達成するために、目違い継ぎ、ガイドレール及びこれに対応する窪み、スナップ機構、接着、又はねじ止めがある請求項９～１１の１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正６】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項１９

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項１９】

摺動パートナー（１１、１２および１３）の縁部（１４）は、外側に向かって、直角にまたは角度を持って、湾曲して、あるいは直線、曲線および／または角度の組み合わせをもって終了する、先の請求項の少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正７】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項２０

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項２０】

中央摺動パートナー（１３）の凸状部が、両外側横向き領域において、対称的にまたは非対称的に、直角にまたは角度をもって、半球状に、面取りされたまたは平坦な形状で構成されている、請求項２またはそれに従属する少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正８】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項２２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項２２】

３つの摺動パートナー（１１、１２、１３）全てのギャップの閉鎖中にプロテーゼから

の滑脱に対する中央摺動パートナー（１３）の追加的な安全装置としての停止部が、中央摺動パートナー（１３）の縁部（１４）の一部であり、これは、上側および／または下側において、中央摺動パートナー（１３）の縁部（１４）よりも高く、摺動パートナー（１１、１２、１３）の最大摺動運動に必要な遊びをもって、上位および／または下位摺動パートナー（１１、１２）の縁部の溝内部でガイドされる、請求項２またはそれに従属する少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正９】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項２３

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項２３】

３つの摺動パートナー（１１、１２、１３）全てのギャップの閉鎖中にプロテーゼからの滑脱に対する縁部（１４）を有する中央摺動パートナー（１３）の追加的な安全装置として、中央摺動パートナー（１３）の縁部（１４）の高さが、部分的または全体的に、凸状部の移動区域から周辺に向かって増加し、前記上方摺動パートナーおよび／または下方摺動パートナー（１１、１２）の前記縁部が同じ程度平らになる、請求項２またはそれに従属する少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正１０】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項２４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項２４】

３つの摺動パートナー（１１、１２、１３）のギャップの閉鎖中にプロテーゼからの滑脱に対する、縁部（１４）を有する中央摺動パートナー（１３）の追加的な安全装置として、上位および／または下位摺動パートナー（１１、１２）の最も外側の縁部が、完全にまたは部分的に、カギ形、摺動パートナーの外側方向に対し直角、あるいは角度のある、湾曲した、またはこれらの組合せである、請求項２またはそれに従属する少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正１１】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項２５

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項２５】

上位および下位摺動パートナー（１１、１２）の外周面の区域および形状が、同じまたは同じではなく、これにより、取り付けることができる椎体の対応する寸法に適応できる、先の請求項の少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

【誤訳訂正１２】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項３０

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項３０】

上位および下位摺動パートナー（１１、１２）が平面または凸状であり、外表面が生理活性的に被覆されまたは平滑で、椎体への一次的繫留のため、背側から腹側へまっすぐにまたは横方向に傾いて各々整列する、繫留用歯（２０）の列を有し、それぞれの背側列は、横向きにのみ整列された繫留用歯（２０）を有する、先の請求項の少なくとも１つに記載の椎間板プロテーゼ。

## 【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 3 1】

上位および／または下位摺動パートナー（1 1、1 2）が、移植または外移植のための器具を係合する手段を有する、先の請求項の少なくとも1つに記載の椎間板プロテーゼ。

## 【誤訳訂正 1 4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 3 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 3 7】

プロテーゼ（1 1、1 2および1 3）の部分を提供する非X線造影が、それぞれ、その表面下で1以上のX線不透過性マーカーでマークされている、先の請求項の少なくとも1つに記載の椎間板プロテーゼ。

## 【誤訳訂正 1 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 6】

椎間板プロテーゼが永久的または永久的だが可逆的に結合する部品からなる限り、目違い継ぎ、ガイドレール及びこれに対応する窪み、スナップ機構、接着、又はねじ止めによって組み立てられることを意図する。

## 【誤訳訂正 1 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 5】

さらに、摺動パートナーの縁部は、外側に向かって直角に、言い換えれば角度をもって、湾曲して、あるいは直線、曲線および／または角度の組み合わせをもって終了することも意図する。3部式プロテーゼの場合、さらに、中央摺動パートナーの凸状部は、両側面に対して半球状、面取りされたまたは平坦な形状で、対称的または非対称的に、直角に、言い換えれば角度をもって、周囲で終了する場合も意図する。連接凹状部は、凸状部の横向きに対応する形状を持つ。中央摺動パートナーは、最終傾きの間、上位および下位摺動パートナーの間にまだ残り、これによって、本発明の椎間板プロテーゼの非常にコンパクトで経済的な（空間に関して）構造を可能にする。

## 【誤訳訂正 1 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 8】

本発明によれば、プロテーゼからの滑脱、滑り落ち、または横滑り（脱臼）に対する、追加の安全装置である、この停止部は、中央摺動パートナーの縁部の一部として設計することもでき、これは、上部および／または下部側で中央摺動パートナーの縁部より高く、摺動パートナーの最大摺動運動に必要な遊びをもって、上位および／または下位摺動パート

ナーの縁部の溝内部で、行うことができる。

【誤訳訂正 18】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0063

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0063】

本発明によれば、上位および下位摺動パートナーの形は、3部式プロテゼのために意図され、縁部区域の周囲は、完全にまたは部分的に、カギ形、他の摺動パートナーの外側の方向に対し直角、あるいは角度のある、湾曲した、またはこれらの組合せである。この設計において、中央摺動パートナーの縁部はそこではより狭く、したがって、中央摺動装置の滑脱を防止するために、中央摺動パートナーは、部分的にまたは完全に、外側摺動パートナーの1個または2個の部品によって覆われる。中央摺動パートナーの縁部は、外側摺動パートナーの縁部の形に対し、最終ギャップの閉鎖の間、連接摺動パートナーの区域をできるだけ高く接触するように適用するのが有利である。